

市内小中学校 いじめ及び不登校の状況

R5. 8. 24 下田市教委

《いじめの状況(8/24 現在 7月までの状況)》

○8/24 現在、いじめの「重大事態」及び解消の見通しが立たない深刻な事案は発生していない。

○市内小学校…7月末までのいじめ認知件数 70 件

(解消件数 6件、見守りを継続している件数 64 件)

○市内中学校…7月末までのいじめ認知件数 27 件

(解消件数 0件、見守りを継続している件数 27 件)

「いじめはいつ、どこでも起こりうる」「その子にとってはどのような事案であっても、深刻な問題である」「いじめの“兆し”を見逃さず、早期発見・未然防止に努める」との考えのもと、いじめを積極的に認知し、丁寧な見取りと支援に努めている。本人が嫌な思いをした場合は、積極的にいじめと認知して対応（いじめ認知件数＝いじめ対応件数との考え）しており、安易に解消したとは考えず、一定期間見守りを継続することで、適切な対応を心掛けている。

【早期発見のために】

- ① “兆し”を見逃さない…丁寧な聞き取り、毎月のいじめ事案の報告、各校における定期的なアンケートの実施
- ② 日頃からの情報共有…各校における定期的な情報共有の場（子どもを語る会、生徒指導会議等）の設定
- ③ 専門的、多面的なアプローチ…スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーによるアセスメントとアプローチ、市指導主事・臨床心理士等による巡回相談

【未然防止のために】

- ① 豊かな体験をとおして心を育む取組…体験的な活動や文化・芸術に触れる場の設定
- ② 担任が一人では抱え込まない環境づくり、発達障害への対応…市特別支援教育支援員の拡充
- ③ 多様な価値観への対応…様々な見方・考え方に触れ、視野を広げる授業や行事の実施や、共生教育の推進

《不登校の状況(8/24 現在 7月までの状況)》 ※病気等を理由としない累積 30 日以上欠席の人数

○市内小学校…7月末までの不登校児童数 4名

○市内中学校…7月末までの不登校生徒数 9名

昨年度の同じ時期とほぼ同程度の人数。不登校には至らずとも、欠席が多い児童・生徒も見られるため、注意して見守りと関わりを続ける。中学校では、新しい環境での学校生活、部活動で活躍することにより、不登校が改善した例が見られる。今後も、「誰一人取り残さない教育」を推進していきたい。

【不登校を解消するために】

- ① 魅力ある学校生活…日々の授業の充実、体験的な活動や魅力的な各種行事の実施、部活動等活躍の場の設定
- ② 学校生活への適応促進…適応指導教室（あじさい教室）による支援、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカー、臨床心理士との連携
- ③ その子の特性に応じた対応…実態に応じて、ICT 機器の活用も検討